

# 厚真の逸品はいかがですか！

## 苫小牧市や岩手県奥州市前沢区で厚真特産品の物産展

収穫期が一段落した十月、各団体などでは、各所で厚真の特産品の物産展を行い人気を集めていました。

十月十四日には、町商工会青年部員とJA青年部員により組織された「あつま新鮮組」が苫小牧市内のスーパードラッグ前では、役場の観光・特産品担当の職員が姉妹都市の岩手県奥州市前沢区を訪れ「産業まつり」に、また、二十六く二十八日の三日間、苫小牧市内の駅前イベントホールで行われた「東胆振物産まつり」では、JAや同女性部厚真支部、市原精肉店、手作りグループあすなろの皆さんが出店し厚真の特産品をPRしました。各物産展では、真心こめてつくられた厚真の農産物や加工品を目当てに来場するお客さんも多く、出店者は厚い真心で接客していました。



(右上から時計回りに)あつま新鮮組による物産展(10/14)、岩手県奥州市前沢区「産業まつり」でジャガイモの無料提供に厚真テント前に並ぶお客様(10/20~21)、東胆振物産まつり(10/26~28)

## こんな読み聞かせ初めて！ 絵本パフォーマンス

10月10日、軽舞小学校PTA(齊藤義幸会長)が主催して「岸田天大さんの絵本パフォーマンス」が同小で行われ、100人を超す子どもたちや保護者などが、岸田さんが繰り広げる世界にクギ付けになっていました。

この催しは家庭教育学級を兼ねたもので、独特な絵本の読み聞かせをする岸田さんを同小の先生が同級生だったことが縁で実現したものです。岸田さんは、絵本のイメージにあった曲を作曲し、曲に合わせた軽妙な語り口で読み聞かせをするパーフォーマーとして知られています。

岸田さんの絵本ライブにクギ付け



ハロウィンを楽しむ子どもたち



## トリック・オア・トリート!! 楽しねハロウィン

町子育て支援センターと町教育委員会が主催するハロウィンが10月22日に子育て支援センターで、同26日には総合福祉センターでそれぞれ行われました。

両ハロウィンとも本町英語指導助手のジェニファー先生などが中心となって紹介したものです。子育て支援センターでは幼児と保護者(右下写真)が、総合福祉センターでは約100人の小学生が、ゲームやダンスなどで体を動かし、外国の子どもたちにも楽しまれている文化に触れるひとときを過ごしました。

# まちの話題

## 火災がない町を願い 厚真・上厚真でパレード



厚真市街地（上）と上厚真市街地でパレード

秋の火災予防運動の初日となる十月十五日、厚真市街地と上厚真市街地で防火パレードが行われました。

行進に先立って、畑嶋副町長が「火災は絶対起こしてはならないという大きな意義をもって参加していただいたことに感謝したい」とパレード参加者にあいさつ。消防指揮車を先頭に、中央小学校の鼓笛隊、法被を身にまとった京町保育園年長組の園児、各団体、消防関係者が火災がない町を願い厚真市街地を行進しました。また、上厚真市街地でも、大西武雄消防団長が「今年は消防創設百周年の意義ある年。皆さんの協力に感謝したい」とあいさつ。参加した宮の森保育園の年長組園児や地域の方々などが市街地を練り歩き、防火を呼びかけていました。

## 厚南地区にもブロードバンドを

全町的な高速通信網の整備を目指し、今年7月に設立された「厚南ブロードバンド研究会」の鈴木英毅代表と曾我清貴さんが町長室を訪れ、NTT東日本苫小牧支店に、厚南地区へのADSL誘致の要望書を提出しました。

鈴木代表は「厚南地区では、企業や子どももつ家庭にADSLを望む声が多い」と話し、設置基準の50件を上回る92件分の仮申し込み書を手渡しました。

また、藤原町長からも同支店へADSLの設置に対する要望書が提出されました。



## 来年もきれいな花を咲かせて

10月5日、厚真川河川敷(新町)では、ボランティアの皆さんによる種とり作業が行われました。

今年6月8日に蒔かれたコスモスや黄花草コスモスは、今年も秋口には、たくさんの花をつけ、行き交う人たちの目を楽しませてくれました。

気持ちよい秋空中、防災行政無線などで集ったボランティアの皆さんが、来年も美しく予定のコスモスなどの種を丁寧に摘み取っていました。



## 形は小さめだがまずまず 浜厚真でシヤマ漁解禁

鵜川漁業協同組合厚真支所では十月五日からシヤマ漁が始まり、浜厚真漁港は秋の風物詩の到来に活気に溢れています。解禁日の明け方出港した漁船は、午後二時すぎには次々に帰港し水揚げ。

同支所によると「今年は、例年と比べると形は若干小さいが、十月末現在、漁獲量は昨年よりも少し少なめ」とのこと。シヤマ漁のピークは十月末で、川にシヤマが遡上するまで行われる予定です。

## 水が枯れることなく出来秋 厚真ダム水神宮で落水式

水が枯れることなく出来秋を迎えることができたことに感謝する落水式が十月十六日、厚真ダムの水神宮で行われました。

色づき始めた木々の中にたたずむ水神宮では、主催する町土地改良区(山田英雄理事長)や町、議会、農業委員会、農協、地元自治会の関係者約三十人がつぎつぎと玉ぐしを捧げ、渇水になることなく秋を迎えられたことに感謝していました。



# まちの話題 plus



さくら保育園児による遊戯「梅の花さいた」

## みんなが観てると頑張っちゃう!!

軽舞小学校（鳥井隆校長）とさくら保育園（金光朋充園長）による合同学芸会が10月28日、軽舞小学校で行われました。児童と園児たちは、この日に向けて練習した成果を、子どもたちの成長を楽しみに講堂いっぱいに詰めかけた家族や地域の方々が見守る中、一人ひとりが元気よく発表し、たくさんの拍手が贈られていました。

町内各小学校の学芸会（学習発表会）は10月に行われており、軽舞小は殿<sup>しんがり</sup>を飾り、10月から12月にかけて行われる町内各保育園の学芸会（お遊戯会）は、さくら保育園が先陣を切りました。

## 互いの知恵を出し合い厚真の未来を

厚真の未来を語る、商工会役員と町職員との懇談会が10月19日、こぶしの湯を会場に初めて行われました。

ひざを交えて行われたこの懇談会に、商工会から寺坂文秀会長をはじめとする役員13人と事務局から4人、役場から主幹・主査15人が参加。寺坂会長が「町が私たちに何をしてくれるかではなく、町に私たちが何をできるかという気持ちと、町職員も町民の活動をお手伝いするという気持ちを持つことが、よいまちづくりにつながると思う」とあいさつ。参加者一人ひとりが未来の郷土への思いを話していました。



まちづくりの説明に耳を傾ける参加者



浅野組合長から幅田教育長に新米が手渡される

## JAから新米が寄贈され学校給食に提供

JAとまこまい広域（浅野勝善組合長）から10月17日、町へ新米のたんとうまい（ななつぼし）40㌔などが寄贈されました。

役場を訪れた浅野組合長などは「農家が手塩にかけ、施設がしっかりとしている厚真で採れたたんとうまいを子どもたちへ」と手渡し、藤原町長と幅田教育長が「厚真の米はきれいでつやがあり、子どもたちも喜びます」とお礼を述べていました。毎年、子どもたちにとって楽しみにしている地元産の新米給食は、10月29日に町内小中学校の児童・生徒に提供（軽舞小は振替休日のため後日提供）されました。

## 季節物の上着からおもちゃまで人気

子育て支援センターゆうゆう島で子育てサークル「にこにこ」が主催して10月13日、フリーマーケットが昨年に引き続き行われました。

限りある資源を大切に使うことを目的に行われているもので、施設の利用者や地域から、乳幼児用の衣服や靴、おもちゃなどが寄せられました。無料で提供されるこのフリマには、今年もたくさんのお母さんなどが来場。小野田友美さん（新町）は「初めて来てみたのですが、真新しいおもちゃや冬物もあったり品ぞろえが充実していますね」と話し、手にとって品物を選んでいました。



品定めをするお母さんたち